



みんなでつくる燕市

これらの課題に向き合い、厳しい現状を乗り越えるためには、市民・企業・行政がそれぞれの強みを活かして互いに補完し合う仕組みが必要であると、私は考えています。行政は、民間の知恵や経験を活用するとともに、民間の方々が動きやすい環境を整備する。また、これまで先輩方の世代が支えてきたまちづくりに、私と同世代の皆さま、そしてその次の世代も巻き込んで、まちづくりの目標を皆で共有し、その目標に向かって力を合わせ取り組んでいく。それが、私が描く『みんなでつくる燕市』であります。この理念のもと、私は目指すべき方向性として、次の3つを掲げます。

1 稼ぐ燕市

1つ目は、『稼ぐ燕市』であります。市民の皆さまの生活が豊かになるためには、安定した収入を確保できるかが重要です。製造業や農業などの産業

振興に真摯（しんし）に取り組み、その成果を市民全体が享受（きやうじやう）できる『豊かな暮らし』に繋（つな）げていく。その想いから、『稼ぐ燕市』の実現を目指して取り組んでまいります。

① 製造業

まず、『製造業』における政策の柱として、次の3つを掲げます。

① 新たな産業の創出

1つ目の柱は、『新たな産業の創出』であります。燕市が積み上げてきた技術を活かして、成長が期待できる事業領域への参入など、民間の方々が主導する新たな産業の発掘を行政が支える、民間主導型の新産業の創出に取り組みます。

また、県内外からの企業誘致を積極的に進めることで、新たな産業がもたらされるとともに、産地として発展し、『ものづくりのまち燕』のブランドの強化にも繋（つな）がると考えています。その際、産業用地としての土地活用についても検討してまいります。

② 販路拡大

2つ目の柱は、『販路拡大』であります。燕市が誇るさまざまな製品

は、国内における人口減少に伴い、需要が縮小していくことは避けられません。一方で、世界に目を向けますと、私の学生時代には世界人口が60億人と言われておりましたが、現在ではその数は80億人を超え、なおも増加の一途をたどっております。

だからこそ、国内市場だけに留まらず、海外市場へ販路を見出していくことは、『ものづくりのまち燕』をさらに発展させるうえで重要となります。

そのため、これまで培ってきた燕市の高い技術力を土台に、世界基準のものづくりを進化させる取り組みを支援し、海外市場への販路拡大や受注増加を目指し取り組んでまいります。

③ 働きやすい職場づくり

3つ目の柱は、『働きやすい職場づくり』であります。「燕はものづくりがすごい」と学校で学んだとしても、ものづくりに携（たづな）わる大人たちが、その仕事に誇りとやりがいを持つていなければ、子どもたちが「自分もものづくりをやってみたい」という想いを抱くことは難しいでしょう。



う。そのため、ものづくりの現場で働く方々が、誇りとやりがいを持って働ける環境をソフト・ハード両面で整備することが重要であると考えています。

加えて、ものづくりのスタートアップを支援する仕組みづくりや、担い手が減少する中でも、多様な技術に対応できる人材育成を支援するなど、ものづくりの基盤を維持・発展させる仕組みづくりを進めてまいります。

2 農業

次に、『農業』における政策の柱として、次の2つを掲げます。

① 担い手の確保

1つ目の柱は、『担い手の確保』であります。燕市の農業を支える農家の皆さまは、およそ70代以上の方が中心となっており、今後5年、10年の間に人手不足が深刻化する懸念があります。農地の集積に向けた基盤整備も重要ではありますが、実際に働く担い手がいなければ農業は成り立ちません。

そこで、農業の新たな担い手を確保するため、農業を始めたといと考えている方々が、農業に一步を踏み出す段階から経営を軌道に乗せるまでを一貫して支援する仕組みを構築してまいります。また、現役農家の方々が、安定的に経営を継続できるよう、さらなる支援にも取り組んでまいります。

② 高収益化の実現

2つ目の柱は、『高収益化の実現』であります。これまでも、農家の皆さまが直販を通じて所得向上を目指す取り組みを支援してきま



したが、今後も利益を確保し、安定した経営へと繋（つな）げるための支援を強化するなど、『稼ぐ農業』を推し進め、子ども

もたちが「農業をしたい」と希望を抱ける燕市を築いてまいります。

③ 商業・観光

以上のように、燕市の基幹産業である製造業や農業が活性化することで、商業やサービス業、観光などへも活力がもたらされるものと捉（とら）えており、この好循環の中で、商業、サービス業、観光にも力を注いでまいります。

商業分野では、工業製品や農産物の流通を担う卸・物流業の活性化に取り組むとともに、商業地域やにぎわい交流拠点などにおいて、にぎわいを創出し、さらには商店街の活性化や回遊性の向上、イメージアップに引き続き取り組んでまいります。

観光では、産業史料館や『燕三条 工場の祭典』を核としたインバウンド向け施策を強化するとともに、観光協会による旅行プランの造成を進めるなど、民間の方々と一緒に、誘客促進を図ります。

また、弥彦や寺泊といった観光地に隣接する燕市の強みを活かし、『道の駅SORA（ソラ）IRO（イロ）国上』を拠点に、移転予定の新分水良寛史料館なども含めた国上地域が観光の目玉となるよう取り組んでまいります。

2 育てる燕市

2つ目の目指すべき方向性は、『育てる燕市』であります。ものづくりも、まちづくりも、その根幹にあるのは『人』であります。市政運営において、人を育てることこそが、燕市の持続的な成長の基盤である、私は確信しています。だからこそ、鈴木前市長が信念をもって取り組み、高い評価を得た『人づくり』の精神をしっかりと受け継いでまいります。

そして、燕市は、令和7年11月25日に『こどもまんなか応援サポーター』を宣言いたしました。この宣言を契機に、子育て環境のさらなる充実を図るとともに、『こどもまんなか応援サポーター』としての取り組みを通じて、未来を担う子どもたち一人ひとりの個性と可能性を尊重し、それを最大限に伸ばせる市政を実現してまいります。

その政策の柱として、次の2つを掲げます。